

**令和2年度 卒業者に対する  
在学期間中の学生生活についての調査  
結果報告書**

**杉野服飾大学  
FD 研究委員会**

## I. 調査について

調査日	令和3年1月25日～2月13日
調査対象	令和3年3月卒業者 165名
回答者数	149名(回答率90.3%)
調査方法	各コース主任へ説明後、アンケートソフトクwestantを使用し、 学生個人のスマートフォンまたはパソコンから回答。 無記名式で選択肢選択及び自由記述。
調査結果	5段階評価(1が最低、5が最高)

## II. 回答者の属性

今年度より、性別の回答を求めないこととした。

入試形態	種別	人数(人)	%
	AO入試	67	45.0
	推薦入試	49	32.9
	公募制入試	6	4.0
	一般入試	8	5.4
	センター	3	2.0
	編入学	16	10.7

コース	人数(人)	%
モード(北折)	30	20.1
モード(安部)	22	14.8
インダストリアル	33	22.1
テキスタイル	24	16.1
プロダクトデザイン	19	12.8
ビジネスマネジメント	9	6.0
流通イノベーション	12	8.1

### Ⅲ. 学生による5段階評定の数値報告

\* 質問1はコース名、質問2は入学時の入試種別(結果は前ページに記載)

質問3. 本学の授業には満足できましたか。

(質問3-①) 専門科目における知識・感性・技術の修得

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	4.07	4.06	3.95	3.99	4.28

(質問3-②) 専門科目の教員の授業・指導

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	4.02	3.93	3.84	3.77	4.19

(質問3-③) 教養科目における知識・教養の会得

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	3.56	3.77	3.83	3.83	4.19

(質問3-④) 教養科目の教員の授業・指導

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	3.61	3.63	3.86	3.84	4.16

(質問3-⑤) 教室の環境・設備

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	3.12	3.06	3.16	3.16	3.56

質問4 以下の項目についてどのように感じていますか。

(質問4-①) コンピューターを用いた授業は役に立ちましたか。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	3.78	3.60	3.89	3.98	4.28

(質問4-②) 教務課員の対応は丁寧でしたか。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	3.60	3.17	3.61	3.33	3.95

(質問4-③) 学生課員の対応は丁寧でしたか。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	3.85	3.77	3.96	3.85	4.13

(質問4-④) 就職課員の対応は丁寧でしたか

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	3.73	3.72	3.56	3.33	4.03

**(質問4-⑤) 図書館員の対応は丁寧でしたか。**

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	3.04	3.16	3.29	3.72	4.03

(質問4-⑥) 購買部の品数は十分でしたか。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	3.45	3.19	3.22	3.55	3.83

(質問4-⑦) 自習室は役に立ちましたか。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	3.59	3.31	3.80	3.79	3.95

(質問4-⑧) 談話室は快適でしたか。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	3.16	2.84	3.43	3.21	3.79

(質問4-⑨) 学食・コンビニの品数は十分でしたか。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	2.81	2.63	3.15	2.96	3.21

(質問4-⑩) 大学祭やクラブ、サークル活動に積極的に参加しましたか。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	2.91	2.79	3.17	2.85	3.31

(質問4-⑪) 友人関係や先輩・後輩との関係は良好でしたか。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	3.86	3.68	3.97	3.79	4.09

(質問4-⑫) 就職活動に関して本学の指導は行き届いていましたか。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	3.19	2.92	3.23	3.02	3.02

質問5 今回コロナウイルス問題は、以下の項目にどう影響しましたか。

(質問5-①) 授業に関してやる気は上がりましたか。

令和2年度
2.52

(質問5-②) 就職活動に関してやる気は上がりましたか。

令和2年度
2.30

(質問5-③) 卒業制作に関してやる気は上がりましたか。

令和2年度
2.95

(質問5―④) 資格取得に関してやる気は上がりましたか。

令和2年度
2.61

質問6 コロナウイルス問題に対する本学の対応は適切でしたか。

令和2年度
3.26

質問8 あなたが学生生活で力を入れたものはどれですか。(複数回答可)

\* 28年度183名、29年度129名、30年度133名

	平成28年度 (%)	平成29年度 (%)	平成30年度 (%)	令和元年度 (%)	令和2年度
学業	60.1%	70.5%	75.9%	78.9%	77.2%
アルバイト	40.4%	50.4%	58.6%	52.3%	49.7%
資格取得	9.3%	20.2%	14.3%	14.1%	15.4%
クラブ・サークル活動	6.0%	14.7%	16.5%	3.1%	8.1%
コンテスト参加	3.8%	16.3%	6.8%	10.9%	6.7%

質問9 在学中に取得した資格は何ですか。(複数回答可)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
ファッション色彩能力検定	27	26	12	16	33
ファッションビジネス能力検定	13	8	5	6	7
ファッション販売能力検定	43	29	7	6	7
パターンメイキング技術検定	15	12	4	12	5
フォーマルスペシャリスト認定 ブロンズライセンス	10	23	12	5	3
CG検定	1	1	0	0	0
ブライダルファッションプランナー	3	3	7	3	4
その他	8	4	9	32	15
延べ合計数	120	106	56	80	74

質問10 総合的に見て、本学での学生生活には満足できましたか。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
平均評点	4.14	3.92	4.20	3.99	4.01

## 2020 年度卒業生アンケート結果へのコメント

コース名：モードクリエーションコース①

担当者：北折貴子

卒業生アンケートではほぼ好意的な回答を得られた。ただし、コロナ禍ということもあり、就職面では低い数値となっている。産学連携で関係した企業などにこちらからもお願いしたりしたが、今年は人員削減を行っているアパレル企業が多くあり、難しかった。結果として就職はしても一般企業に入ったり、今までアルバイトで入っていた歯科助手の仕事に正社員で就いたりと初めてのケースがみられた。アンケートはショー録画の前ということもあり、卒業制作の集大成を感じるまでに至らなかったと思うが、このコロナ禍でショー録画ができたことに学生たちは大学側に大変感謝していた。33名の学生に対してミシンが16台しかなく、また第2校舎で近くの部屋への分散ができず4階と地下の部屋に分かれての授業となったのもっと不満が出るかと思った。卒業制作ということもあり、事前に申し出た場合は家での作業を認めていたが、やはり質問もしやすく、設備も整っている大学に来校する学生が多くみられた。

コンビニについても希望者がいるが、経営の問題で第3校舎のコンビニが撤退してしまったり、コロナ禍で学食が閉鎖されたりと今までのようには快適な大学生活ではなかったことは致し方ない。

今後に向けては新たなコロナ後の生活を見据えて、就職指導や教室の使い方、家でできる作業の見極め方などに工夫して学生の負担を少なく知識技術を身に着け満足感のある卒業制作に至れるように工夫していきたい。



## 2020 年度卒業生アンケート結果へのコメント

コース名：モードクリエーション

担当者：安部智子

入学時の目標を「服を作れるようになりたい」と答えていた学生が多く、学生時代に学業に力を入れたと回答した結果、入学時の目標は程度の差はあるとしても「達成できた」と感じていると回答した割合が多かった点や、学生生活の満足度ではおおむね満足できたとの回答に安心した。

しかしながら、学生生活の満足度を「1」と評価した学生が1名いたことは事実である。その学生の意見に「学生が自由に利用できるスペースがあまりにも少なく、設備も無く大変不便ですしロッカーの小ささもとても不便です。」とある。今年度は新型コロナウイルス感染症対策で、授業時間外の教室使用に制限があり、思うように制作ができなかったのかもしれない。感染症の状況を見ながら可能な範囲で対応したが、学生の思うようにはならなかった不満が現れたのだろう。毎年のことであるが、学生の希望に全て対応することは実際問題として難しいことも多い。それぞれの要望に対して、お互いに配慮ができるような関係の構築を目指していきたい。

また、新型コロナウイルス感染症の対応に関しては、感染症に対する危機感の相違から、対面授業ではなくリモートにすべきだったという意見が見られた。実際にリモート授業をした感想として、実習が伴う授業であるため、対面して同じものを見ながら話すことで共通理解が得られることも多い。しかし今後も想定される事態であるので、リモートでできること、対面でできること、その利点を考慮しながら今後の授業運営に活かしていきたい。

2020 年度卒業生アンケート結果へのコメント

コース名：インダストリアルパターンコース

担当者：住野雅子

2020 年パンデミックこのような時代の評価はどのように判断すればよいのか。4 年を担当している者として、インダストリアルパターンコース第 3 期生を卒業させるのに、COVID-19 と戦わなければならなかった。シラバスでは、前期で制作を行うという対面授業である。無観客でファッションショーを行う必要があるのか。今年は学生とコミュニケーションをとり、慎重に進め学生から保護者と話し合うように説明を行った。思い切ったシラバスの変更が、必要であった。前期にファッションショー企画を全て仕上げ、仮想的な思考を構築する。それにより卒業制作 8 作品として、照明、音楽、ファッションショー舞台構想をすべて前期に終了させた。6 月から対面が開始され、【非接触衣服パターン】をテーマに全く新しい技術の指導を行った。学生の反応は良くすぐに習得し、自宅でもクラウドで自ら費用をかけるまでになった。後期は、更に学生と話し合い、結果、学生がどのようにしたいのかをよく知る機会を持つことが出来た。過去の事例をそのまま押し付けず、今の学生と時代と向き合う中で、創意工夫が出来、従来のままを進めていたら、学生には不満が残っていたと思われる。コースは学生によって大きく左右される。しかし、基本はライセンスを取得するために通っているというシンプルな発想がすべてである。企業との連動をしていた昨年度は、クレームが多く、不満が多かったがその企業との連動していたことで、今年の学生は、社会性も失う事もがなく即戦力も身につけている。コースでは人体工学論（選択）コース主任担当で授業が始まり、4 年間指導する学生もいるので、成長を観ることが出来るようになっていく。2 年次工業パターンや縫製を指導する教科、3 年次専門的な CAD を指導する教科と段階別にステップを進め、資格取得をめざす。今年はパンデミックの為、本来の資格より研究に教科した。その為、口頭発表を卒業制作に取り入れることとなった。今後は、COVID-19 がどのような事態になっているかを判断し、出来る範囲で有効な手段を取り、今年の卒業制作の経験を活かしたい。

## 2020 年度卒業生アンケート結果へのコメント

コース名：テキスタイルデザインコース

担当者：田口雅子

### ◆全体 5 段階の評価

これまでより点数が徐々に上がっている。

### ◆コース別評価について

コースでも意欲的な学生が多く、学業に対する学びの姿勢も高いと感じる。気になるのは、設問「コンピュータの授業が役に立ったか」である。これがコース授業を指すのであればコンピュータでの表現やテクニックについての強化を図っていたので結果がついていないことになる。技術は学んでいるが成果物が曖昧のために達成感が感じられていない可能性がある。再度授業のプランを見直したいと思う。

### ◆自由記述について

○環境について：教室が地下であったため、寒さや Wi-Fi の環境の悪さを感じている学生がいた。学年外の交流がないので、自分の行動力が必要と感じている学生がいた。寮生活を経験した学生が寮での環境についてやその他に大学の宣伝力について強化を願う意見があった。

○授業について：主任交代による不満の意見である。個々のコミュニケーションを心かけ、コロナ禍ということもあり、4月からリモート面接、対面授業開始後も自宅学習の取り入れ、登校時の注意について説明をし、授業を実施していたが、自宅学習の学生への周知がなかなか面もあるかと反省する。また、メールでのやりとりでは一方向の発信になってしまい返信が来ない場合など、授業を運営にしていくのに不安が残った。改めてコミュニケーションの難しさを痛感する。基本的なことではあるが、「なぜそのように求めているのか、何をなぜして欲しいのか」を説明し、納得してもらいながら進める方法を留意したい。全員を必死に対応していたにも関わらず、とても悲しく残念なことであるが、来年は学生が求めているものがとても多いので更に気を付けていかなければならないと感じている。

## 2020年度卒業生アンケート結果へのコメント

コース名：ファッションプロダクトデザインコース

担当者：肉丸美香子

21年度は4月からコロナ禍で正規の授業体制での実施が困難な状況が続き、シラバスに関しても多くの変更を余儀なくされた。

卒業制作では前期に個人制作を行なっているがこれらの問題がそれ程制作に影響を及ぼすことは無いようであった。しかし後期のグループ制作ではリモートに起因する問題点が幾つか散見された。各グループごとに学生達が主体的に話し合いを重ね、繰り返しの情報交換やスケジュール調整、試作検証と確認作業などが重要で有る。これらをリモートで行う中で発生する齟齬は数多く見られた。又、教室使用の場合には分散に配慮し、実習時間の短縮という悪条件にも関わらず学生達は苦勞しながら作品制作に励んでいた。同時に大幅に制限された時間の中でより効率的に物事を進められるような工夫とアイデアを生み出す気運がグループ内に生まれたように思われた。緻密なコミュニケーションの必要性、計画性、チームワークの重要性など協同制作には欠くことの出来ないポイントをしっかり理解し制作に繋げていたグループが多く見られた。

そういう中でも、技術の習得、教員の授業指導、知識教養の会得、など、比較的高評価であったことは、嬉しく思う。学生たちとのコミュニケーションを特に測るように心がけ、全員が同じことを共有できるように、随時情報は配信続けた。コロナ禍ではあったのだが、学生生活の満足度は高評価であった。むしろ満足度が向上している点が見受けられた事は意外であると感じる。

不満が多かったのは教室、実習室の環境と設備に関してである。設備面では特に今季のような状況では、短期間に多数の学生がミシンを使用しての作業に集中し、もともと台数の少ない工業用ミシンの増数を望む声が多かった。プロダクトの教室は、4階で、夏は暑く冬は、寒いと感じる学生がおり、特に空調管理について不満を漏らす学生が多い。特に今回はコロナということもあり、ほとんど風通しを良くするために、コートなどを着用して、授業に出てもらった。

今回コロナということもあり、学生たちは、決して快適とは言えない環境で授業を受けてきた。この1年間の経験を生かし、教室の使用法、授業を進行方法など学生に負担がかからないように卒業制作を安心して進められるような環境を工夫していきたい。

## 2020 年度卒業生アンケート結果へのコメント

コース名：ファッションビジネス・流通イノベーションコース

担当者：五月女由紀子

### 【全体のアンケート結果】

令和 2 年度は 4 月からコロナ禍で、通常の授業が行えないというイレギュラーな中、最終学年の 4 年生にとっては卒業制作や論文の発表の機会がなくなるなど、学業的にも心理的にも学生の意識を危惧していた。しかし、令和元年度以前の調査と比較して、教職員、学業、友人関係、資格取得、就職に対して例年よりむしろ満足度が向上している点が見受けられた事は意外であった。しかし、コロナウィルスに対しては、全般的に意欲が下がったという点は明らかであり、大学の対応だけでなく社会全てが不安材料であり、就職や社会に出ていくタイミングとしては、今後もケアをしていく必要があると思える学年である。しかし、4 年間の総合的点では大きな問題はなかったという結果も出ていて、世間やマスコミで言われているよりは少し安堵できる点も認められた。

自由記述欄でも出てきたように、本学の施設に関して、温度調整ができないことや寮について、学食やコンビニなどへの不満は多くが感じていたことであり、安心して学業や生活ができるように今後の対応は検討課題だと思ふ。学校 PR についての意見もさらに強化するべきだという納得できる意見であり、これも今後の入試広報の課題だと認識された。

### 【流通イノベーションコースのアンケート結果】

多くの平均値に対して、ほとんどの面で満足度が平均より低かったという事はコース主任として多に反省させられる点である。この学年はコースを設立して 3 年目で、まだ試行錯誤の中で授業や体験を行ってきたという経緯があり、現在のようなコースコンセプトが明確になっていない中で 2 年生 3 年生と進めてきたことも否めない。その反省は来年度以降の授業ではかなり具体的に変更をしており、さらに就職に直接つながるような教育方向へと構想しているが、今年の卒業生には不足していたと思われる。しかし、4 年の大半が自治会に参加していたこと、自治会長と副会長とがいたことで、常に大学生活や大学祭などには背欲的に動いていた点や、総合的に学生生活への満足度が平均より高かったということは、安心材料であったと思う。

コース別の結果を見ると、イノベーションコースでは、入学時の目標は多くが達成しているという回答であり、全てが正社員での採用ではないとしても、やりたい職種での仕事ができる状況であることは良かった。またコース内で今後は EC が伸びていくこと、業界全体が変わることを強く訴えてきたが、その点も何人かは理解してくれた点は嬉しい。

今後の改善点としては、資格取得を向上していく必要があることや、バイトから就職に繋がっていることが事実であり、大事ではあるが、大学教育との連携もさらに必要だと感じた。そのためにコース専門科目の具体的に充実度と習得力のアップはコース主任として必要不可欠であり、来年度以降の反省点として、具体的に全ての科目に対して見直しを行うことや、2年から段階的に成長して就職までつながるような履修系統図の再確認などを改めて強く感じた。

## 2020 年度卒業生アンケート結果へのコメント

コース名：ファッションビジネス・マネジメントコース

担当者：鈴木康久

### ① 全体概況

本アンケートの該当年度については、卒業生のみならず他の各学年においても、コロナ禍における授業進行あるいは大学生活という例年とは違う特殊性が存在するため、状況判断の難しいアンケート結果となっている。また本コースについては例年に比較し極めて少ない学生数（10名）による2020年度卒業生となっている事にも注視する必要があると考える。

### ② 学習について

ビジネス系コースについては、該当年度学生の最終年度がコロナ禍による授業運営となった事もあり、遠隔主体の授業進行となり、学生達の慣れない遠隔授業へのアプローチや視聴中心の講義等となった事もあり、学生にとってはストレスフルな授業となった事は否めない。一方で自由記述にも記載があったように、実務経験者を招聘した臨場感とリアリティのある授業提供を計画した事に対する評価は学生の充足度が一定程度達成した事が伺える結果となった。

一部の学生より、授業内容の科目間の重複性に対する意見があったが、これらについてはコース側でも認識しており、この1年を通じて必修科目の内容修正等を計画し、実行準備を進めており、次年度以降においては重複性の削減効果が相当程度期待されるものとなっている。

多くの学生の意見を踏まえると、ファッションビジネスを取り巻く環境に即した実践的な学習を期待している事が認識出来る。この学生達の求める志向性は本コースの目指す方向性とも合致する事から、更なる改善・強化をはかり、学生の充足度向上にも繋げていきたい。

### ③ 入学時の目標達成度

標記の結果としては、自由記述の中では、目標達成度の高い結果となっている事が伺える。コロナ禍にありながらの本結果については一定の評価できる内容ではある。しかしながら目指す業界や企業への就業という事象についても目標の中に当然ながら含まれているわけで、その結果については、コースとしては満足のできない不十分な結果と認識している。この点については、より学生に寄り添った就業サポートを行っていく事を改善点として深く認識しており、既に2021年度卒業見込生に向けてはサポートの強化を推進中である。

#### ④ 設備・環境面

空調設備に関する内容が多くみられるが、空調設備機器そのものよりは、建物の老朽化による熱効率の悪さに起因するものと理解される。しかしながら使用校舎については、多くの学生達を輩出して来た伝統と歴史が刻まれた建造物でもあり、その校舎から得られる高い創造性や蓄積された資料や資材等のアーカイブスは、逆に教育機関の財産でもあり、他大学においてもこのような伝統と歴史溢れる建造物や施設は本学同様に大切に維持する事に尽力している傾向にある事を学生達にも理解いただきたい。

一方で使用PCのスペックに対する不満も記述の中に散見されており、これについてはスペック改善すべく、既に現在、関係部署と協議中である。

#### ⑤ その他・総括

コース主任が2020年度より交代し、本アンケート該当の卒業生との関わりは3年次からとなっており、各学生との関わり合いについて時間的な制約が存在していた事は否めない。本該当年度生とは卒業後も関わりを絶やさず、引き続きフォローしていきたいと考える。また、いただいた沢山の意見や希望については真摯に受け止め、次年度生以降の教育機会において大切に生かしていきたいと考える。